

令和4年12月1日

三浦市議会議長 草間 道治 様

総務経済常任委員会
委員長 出口 眞琴

令和4年度 総務経済常任委員会行政視察報告書

1. 視察日程

令和4年10月26日（水）・27日（木）

2. 視察地

香川県 三豊市 10月26日

愛媛県 四国中央市 10月27日

3. 視察参加者

総務経済常任委員会

委員長 出口 眞琴

委員 寺田 一樹

委員 千田 征志

委員 長島満理子

委員 小林 直樹

議長 草間 道治

随 行 福田 正雄

4. 視察事項

○香川県 三豊市 「移住定住施策について」

○愛媛県 四国中央市 「新庁舎建設について」

【10月26日(水)】

(三豊市HPより)

■ 香川県 三豊市の概要

- ・面積 222.70 平方キロメートル
- ・人口 59,876人 (令和4年9月)
- ・世帯数 26,182世帯 (〃)
- ・産業別 第1次産業 (12.1%) 第2次産業 (32.4%)
第3次産業 (55.6%)
- ・特産品 みかん お茶 マーガレット
- ・市の花 マーガレット
- ・市の木 桜
- ・市制施行 平成18年1月1日 (旧高瀬町、山本町、三野町、豊中町
宅間町、仁尾町、財田町 7町合併)

■ 位置・地勢

三豊市は、香川県の西部に位置し、愛媛県や高知県にも近い位置にあります。北東部は象頭山(琴平町)、大麻山、弥谷山などに接し、南東部は讃岐山脈の中蓮寺峰、若狭峰、猪ノ鼻峠、六地蔵峠などを境に徳島県に接しています。北西部は、瀬戸内海に突き出た荘内半島があり、その南部には、砂浜の美しい海岸線が続いており、粟島、志々島、鳶島などの島しょ部もみられます。中央部には三豊平野が広がり、東部から西部に向かって財田川、東部から北部に向かって高瀬川などの河川が流れ、豊かな田園地帯を形成しています。また、三豊平野にはため池が多数点在し、新市の地勢の大きな特色となっています。

■ 交通条件

市内には、北東から南西方向に高松自動車道、国道11号、377号、JR予讃線が走り、南東部には、南北に国道32号、JR土讃線が走っており、幹線交通軸を形成しています。高速自動車道については、さぬき豊中インターチェンジ、三豊鳥坂インターチェンジを有しています。また、国道32号を通じて井川池田インターチェンジとも連絡し、高松、松山、高知、徳島、岡山など各方面に向けて交通の利便性が高くなっています。

さらに、JR高瀬駅、詫間駅には、特急電車が停車するほか、土讃線の分岐点であるJR多度津駅、高松空港など交通の結節点にも近く、四国における交通の要衝に近接した恵まれた交通条件を有しています。

また、海上交通の拠点として、国際貿易港である詫間港とマリンレジャーのさかんな仁尾港の2つの地方港湾(県管理)を有しています。

移住定住施策について

(三豊市の移住・定住促進施策について)

- 視察目的

近年、全国的に少子高齢化による人口減少が進んでおり、三浦市でも移住定住促進事業に取り組み、移住セミナーを開催するほか、民間事業者の運営するサテライトオフィスの整備等を支援することで、三浦市への移住をPRし、移住者の増加を目指しています。コロナ禍を機にリモートワークが増え、働く場所や住む場所に対する考え方が変わりつつあります。地方への移住もそのひとつです。今回は香川県で特に移住に力を入れている三豊市のこれまでの取組の経緯や実施状況・成果を調査し、本市の移住・定住施策に生かすことを目的とした行政視察とします。

- 視察先対応者

進行：三豊市議会事務局 局長 凶子 康博

説明員：地域戦略課 課長補佐 真鍋 裕亮

- 視察訪問先 三豊市役所

- 事業概要

三豊市では令和3年度は移住者数305、移住世帯数201、移住相談数143件、令和2年度と比較すると移住者数211増、移住世帯数146増、移住相談数22減と移住者数・移住世帯数が大幅に増加しているとの事であります。取り組んでいる支援事業として、空き家バンク制度は空き家所有者と空き家利用希望者の橋渡しを行い三豊市への移住・定住を応援する制度で、空き家バンク登録住宅を購入した方がリフォーム工事を市内業者に発注し30万円以上の費用を要した場合、その費用の50%(上限は100万円)を補助する制度です。また、空き家バンク住宅を賃貸する方に家賃補助制度もあります。

その他に、若者定住促進・地域活性化事業補助金として40歳に達していない市内居住者及び転入する予定の方で補助金交付後、5年以上継続して補助対象の住宅に居住することを条件に市内に新築し、又は購入した住宅に対し取得に要した費用が1,500万円以上→100万円、1,500万円未満→取得価格の20分の1の額の補助を行います。

東京圏UJIターン移住支援事業補助金や市外から転入した新婚世帯の方への家賃補助、移住相談窓口では三豊市移住定住ポータルサイトを開設し「みとよ暮らし手帳」で移住に係る各課の取り組みを紹介しています。

今後の新たな移住・定住促進の取り組み展開としては、従来の補助金に

頼った施策でなく「市民が誇れる、魅力あるまちづくり」という原点に戻りデジタルを活用した客観データと主観データを組み合わせて市民（住民＋関係人口）の視点から「暮らしやすさ・幸福度」を数値化、可視化する「ウェルビーイング（心身の健康や幸福）」の取り組みで住民のウェルビーイングを測定・評価し、街づくりに生かすものでした。

ウェルビーイングシティ指標はその自治体の幸福感や暮らしやすさを指標で表すもので、市民が暮らしていくために満足している事や不足な事が分かりやすく表れ市民生活の向上には何が必要か取り組むべき課題が明確になると思いますので、三浦市でもウェルビーイングの検討をすべきと考えます。

■ 主な質疑応答

Q：施策に取り組むことになった当時、貴市が抱えていた課題や置かれていた状況はどうであったか。

A：平成18年の合併時71,056人から令和4年59,823人へ11,233人減少していたことから人口減少対策、高齢化率36.5%等、第2次総合計画（2019年～2028年）のまちの将来像人口目標63,500人を目指すこととなった。

Q：具体的な取り組みの推移や経過、移住PR方法等についてはどのようにしているのか。

A：かがわ移住ポータルサイト「かがわ暮（ぐ）らし」での紹介や、SNSで話題の絶景が暮らしの中に身近にあるまちとして日本のウユニ塩湖と呼ばれる「父母ヶ浜」や桜の名所「紫雲出山」の絶景がSNSを通じて注目を集めている。また、市の定住支援の取り組みについては、ポータルサイト「みとよ暮らし手帳」で各種移住定住支援制度を紹介している。



夕日の絶景 父母ヶ浜

Q：定住に関する支援についてはどうか。

A：ポータルサイトで空き家バンクの物件情報を掲載、移住定住の後押しとなるように補助金のメニューや若者世代の住宅取得補助や、空き家バンクリフォーム補助、各種家賃補助を実施している。子育て支援の面では、「子育て世代包括支援センター」を開設、15歳までは医療費が無料であるほか、3歳

まで使える子育て応援サービス券（3万円相当）の支給なども行っている。

Q：現状の成果についてはどうか。

A：令和3年度は移住者数305人、移住世帯数201世帯、移住相談数143件、令和2年度と比較すると移住者数211人増、移住世帯数146世帯増、移住相談数22件減と移住者数・移住世帯数が大幅に増加している。



Q：今後の取り組みについてはどのように進めるのか。

A：従来の補助金に頼った施策でなく、「市民が誇れる、魅力あるまちづくり」という原点に戻り、デジタルを活用し健康を中心とした取り組み『Well-being^(※1)』と『シビックプライド^(※2)』を向上させ、選んでもらえる住み続けたい町づくりを目指す。

※1 「Well-being」とは健康で安心なこと、満足できる生活状態の事

※2 「シビックプライド」とは「地元に対して貢献したい」と思う気持ちの事

【10月26日(水)】

(四国中央市HPより)

■ 愛媛県 四国中央市の概要

- ・面積 約 420 平方キロメートル
- ・人口 83,624人 (令和4年9月)
- ・世帯数 38,914世帯 (〃)
- ・産業別 第1次産業 (4.1%) 第2次産業 (39.5%)
第3次産業 (56.3%)
- ・市制施行 平成16年4月1日 (川之江市、伊予三島市、土居町、
新宮村 2市1町1村が合併)

■ 位置・地勢

愛媛県の東部、四国の高速道路の中央結節点に位置し、市街地が瀬戸内海に面し、法皇山脈と四国山地との間に吉野川支流の銅山川を有して、町・海・山と多様な表情をもっています。

山間部は、重要な水源地であり、その大半を森林が占めています。森林は水源涵養、水害防止、環境保全など多目的な機能を有し、市民生活と密接に結びついています。

また、重要港湾三島川之江港を海の玄関口とし、製紙・紙産業を基幹とする工業が集積して、四国中央市の経済を牽引する役割を担っています。

更に、高速道路網の整備により、三島川之江・土居・新宮の3つのインターチェンジと川之江・川之江東の2つのジャンクションを持ち、四国の「エクスハイウェイ」の結節点となっています。

■ 気候

燧灘（ひうちなだ）に面した平野部は、瀬戸内海特有の温暖・少雨で、年間平均降水量は約1,500mm、年間平均気温は16.0℃と、冬期においても積雪をみることはまれで、台風や洪水、地震などの天災も少なく、気象条件に恵まれています。

この地域の気候の大きな特色のひとつとして、平野部では毎年春先から初夏にかけて、日本三大局地風の一つである「やまじ風」が、法皇山脈の北斜面から燧灘へ周期的に吹きおろし、時には人家や農作物に被害を及ぼすことがあります。また、法皇山脈と四国山地に囲まれた山間部は、年間平均降水量は約1,700mm、年間平均気温は13.3℃と、瀬戸内海に近く位置しているため比較的温和となっています。冬期には積雪や結氷もみられます。

新庁舎建設について

(四国中央市新庁舎建設について)

● 視察目的

今回の視察の目的は令和8年を目途に市役所移転を検討している事から、平成30年9月に新庁舎での業務を開始し、令和元年9月に全体工事が竣工した四国中央市新庁舎を視察いたしました。

● 視察先対応者

進行：四国中央市議会事務局 局長 高橋 徹

説明員：政策部 管理課 課長補佐 尾藤 守

水道局 水道総務課 課長 篠原 健

建設部 建築住宅課 課長補佐 鈴木 辰典

● 視察訪問先 四国中央市役所

● 事業概要

四国中央市は、旧庁舎の耐震性と老朽化、また、庁舎4地区分散による事務効率や市民サービス機能の低下、各庁舎のユニバーサルデザイン対応の限界などの理由により、新庁舎建設に取り組むこととなりました。

新庁舎の基本理念は1. 市民の安全・安心な暮らしを支える庁舎 2. 市民に親しまれ、利用しやすい庁舎 3. 環境に配慮し、かつ効率的・機能性を重視した経済的な庁舎としています。

建設に係る経緯としては平成25年に検討を開始し、平成28年12月から工事に着手し平成30年9月新庁舎での業務が開始されました。会議室での説明会后、新庁舎内を見学しました。1階に市民窓口部門、2階に福祉窓口部門が集約されユニバーサルデザインを導入し誰もが利用しやすいよう配慮がされていました。

また、新庁舎は高い耐震性を有した防災拠点として機能強化を図りながら、雑用水の雨水利用や照明のLED化、高断熱ガラスの採用等、環境に配慮したものになっていました。



四国中央市役所 新庁舎

■ 主な質疑応答

Q : 新庁舎建設の理由として老朽化の他にどのような理由・課題があったのか。

A : 合併協議では10年以内に適地を求めて建設するとしていた。

: 平成16年の合併当初より旧伊予三島市役所を本庁舎として供用しており老朽化等多くの課題があったが、台風被害による経費の増加など厳しい財政状況であった。

: いずれ対応が必要となる事から、平成25年に新庁舎を建設する方向で検討を開始し、建設に向けスタートした。



Q : 新庁舎建設にあたりどのようなコンセプト持って取り組んだのか。

- A :
1. 市民の安全・安心な暮らしを支える庁舎
 2. 市民に親しまれ、利用しやすい庁舎
 3. 環境に配慮し、かつ効率的・機能性を重視した経済的な庁舎

Q : 建設に向けた検討体制づくりについてはどのように行ったのか。

A : 以下のとおり進めていった。

平成25年8月新庁舎基本方針の検討開始

・ 庁舎検討会 ・ 庁舎等整備検討会

平成26年 新庁舎基本方針 策定 庁舎施設整備等調査特別委員会設置
庁内建設検討会

平成27年 新庁舎整備室 新設

平成28年 新庁舎・文化ホール整備課 新設 入札

平成29年 着工 新庁舎建設作業部会による検討開始

平成30年 庁舎棟・市民交流棟・連絡通路等 完成

令和元年 建設工事竣工（立体駐車場完成）

Q : 市民への説明や近隣住民への対応についてはどのように行ったのか。

A : 財政負担に対する考え方や予算、建設位置等について適時市民へ周知
市議会へ検討会・特別委員会等で協力・検討を行った。

近隣とは大きなトラブルはなかったが、騒音に対する苦情が多かった。

行政視察の成果について

総務経済常任委員長 出口 眞琴

令和4年度総務経済常任委員会では10月16日～27日にかけて行政視察を行いました。

行政視察1日目は香川県三豊市の「移住・定住推進事業」、2日目は愛媛県四国中央市「新庁舎建設事業」を視察してきました。



現在、三浦市でも移住定住促進事業に取り組み、移住セミナーを開催するほか、民間事業者の運営するサテライトオフィスの整備等を支援し、三浦市への移住をPRし、移住者の増加を目指していますが、実績のある三豊市では移住・定住促進施策として様々な取り組みを行っています。

三豊市では令和2年度に比べ令和3年度は移住者数211人の増加、移住世帯数146世帯の増加と大幅に増加しておりこれまでの取り組みの成果が出ています。取り組みとしては国からの補助金を使った空き家バンク制度でリフォーム補助や家賃補助制度等に取り組んでおり、その効果があると思われます。また、三豊市移住定住ポータルサイトを開設し「みとよ暮らし手帳」で分かりやすく移住に係る各課の取り組みが紹介されています。

今後の新たな移住・定住促進の取り組み展開として従来の補助金交付が無くなるため、補助制度に頼った施策でなく「市民が誇れる、魅力あるまちづくり」という原点に返りデジタルを活用した客観データと主観データを組み合わせて市民（住民＋関係人口）の視点から「暮らしやすさ・幸福度」を数値化、可視化する「ウェルビーイング（心身の健康や幸福）」の取り組みで住民のウェルビーイングを測定・評価し、街づくりに生かすものでした。

ウェルビーイングシティ指標はその自治体の幸福感や暮らしやすさを指標で表すので、市民が暮らししていくために満足している事や不足な事が分かりやすく表れ市民生活の向上には何が必要か取り組むべき課題が明確になると思います。三浦市でもこのウェルビーイングの検討をすべきと考えます。

2日目の、四国中央市は愛媛県の東端に位置する市で四国地方を代表する工業都市のひとつであり、日本有数の製紙産業地帯となっています。人口は83,624人（令和4年9月）で平成16年4月1日市制施行（川之江市、伊

予三島市、土居町、新宮村（2市1町1村が合併）、製紙・紙産業を基幹とする工業が集積して、四国中央市の経済を牽引する役割を担っています。

今回の視察の目的は令和8年を目途に市役所移転を検討している事から、令和元年9月にすべての工事が完成した四国中央市の新庁舎等を視察いたしました。

担当職員から新庁舎の基本理念・旧庁舎の課題・新庁舎建設に係る経緯等が説明され、1,災害対応拠点の機能が果たせる庁舎 2,誰もが利用しやすい庁舎 3,環境に配慮し、効率的・機能性を重視した経済的な庁舎等、という新庁舎のコンセプトが説明されました。

その後、新庁舎内の見学では雨天時でも利用しやすい駐車場、市民の用務が一か所で完結出来るよう部署を集約、車椅子で利用しやすいローカウンター等障害のある方への細かい配慮が整備されています。隣接している市民交流棟には連絡通路棟からボランティア市民活動センター・市民交流スペース・観光協会等へ直接アクセスが出来、隣接する福社会館へは連絡通路で移動できるなど利便性を向上させていました。

新庁舎建設で重要な事はコンセプトにあるように市民が利用しやすい庁舎である事、安全・安心な庁舎である事、環境に配慮し効率性・機能性を重視した経済的な庁舎である事が条件であります。

また、庁舎建設をするには、建設に要する財源の関係が非常に重要な視点である事も間違いありません。

三浦市でも市役所移転の検討に行っていますが、議会・行政・市民が納得出来る新庁舎に向けた検討を今回の視察を参考に議会として慎重に取り組んでまいります。

総務経済常任委員会行政視察 報告

寺田 一樹

移住・定住施策について

三豊市で移住・定住促進施策についてのお話を伺いました。

三豊市は、平成18年に7町の対等合併により誕生しました。令和4年10月1日現在における人口は、合併時から11,233人の減少とのことです。第2次総合計画では、計画策定時の人口を維持するとともに、交流人口、関係人口を増やしていくことを目的とし、人口目標を「63,500人+」としています。この目標を達成すべく、様々な移住・定住施策を展開しています。また、香川県としても移住に力を入れているということで県費を活用した施策も実施しています。



空き家バンク制度では、平成24年の制度開始以降、登録された件数が590件超で、成立した件数は500件超、常時約90件の物件情報を掲載しているとのことでした。本市では、この制度が活発に利用されているとは言い難い状況なので、どうすれば登録件数が増えるのかと疑問を持ったのですが、担当者からは、「物件を登録するにあたって、特別なことをしているつもりはない」とのお返事でした。

また三豊市では、移住に関するガイドブックを作成し、移住相談者に配布しているとのことでした。移住に関する内容を網羅していて、掲載されている内容に変化が生じた場合は即座に対応できるよう全庁的に取り組んでいるとのことでした。

本市と三豊市、神奈川県と香川県ということで、地理的条件や資金面などにも違いがあり、三豊市の施策をそのまま取り入れるというわけにはいきませんが、今後も継続して移住・定住施策を考えていく上で参考になりました。

新庁舎建設について

四国中央市で新庁舎建設についてお話を伺いました。

四国中央市は、4市町村が合併し平成16年に誕生しました。合併当初から旧伊予三島市役所庁舎を本庁舎として供用していましたが、老朽化など多くの課題を抱えていました。平成25年に、新庁舎を建設する方向で検討が開始され、その後、基本構想や基本計画において新庁舎建設位置や規模等を決定しながら、平成30年9月に供用開始となりました。その間、「庁舎施設整備等調査特別委員会」が設置され、議会内でも検討されていたようです。来庁者アンケートも行い、利用者からの要望も吸い上げていました。

そうして建てられた新庁舎のコンセプトは、「①市民の安全・安心な暮らしを支える庁舎」、「②市民に親しまれ、利用しやすい庁舎」、「③環境に配慮し、か

つ効率的・機能性を重視した経済的な庁舎」となっています。

実際に庁舎内を見学させていただきましたが、来庁者にわかりやすくするために、庁舎を色分けし、課名とともに番号を見やすい位置に掲げるなどの工夫がされていました。また、立体駐車場棟から市民交流棟、市民交流棟から庁舎棟と連絡通路が設けられていて、雨天時においても傘を必要としない造りにするなど、市民目線での配慮が随所に見られました。

三浦市においても、令和8年の供用開始を目指して新庁舎の建設が検討されていますが、訪れる人にとって使い勝手の良い庁舎とするための大きなヒントを得ることのできる視察となりました。

総務経済常任委員会行政視察 報告

千田 征志

1. 香川県三豊市移住・定住施策について

平成18年、7町の対等合併で誕生した三豊市は合併時71,056人から令和4年10月現在は推計59,823人と人口減少傾向であるが、第二次総合計画（2019～2028年度）において、まちの将来像「One MITOYO（ワン みとよ）～心つながる豊かさ実感都市～」を掲げ、139企業・団体など官民共同で、人口目標を63,500人+の取り組みに尽力しているとご説明を頂きました。



現状の課題としては、令和3年度の移住者数は2,780人、移住相談件数は4,540件と、各市町から報告を取り始めた平成26年度以降、移住者数及び移住世帯数は、過去8年間を通して最多となっているものの伸び率は鈍化しているとの事でした。

その様な状況にも関わらず、三豊市では、助成金や支援制度が手厚く、補助制度も整っている事から、「戻りたいまち全国3位」という結果が出ています。本市の移住・定住施策（みうら暮らし三浦市移住ポータルサイト）におきましても、財政事情が困難ではありますが、具体的な人口目標を掲げ、三浦の魅力発信を行うと共に、官民一体で今後の新たな移住・定住促進に取り組み、「空き家バンク」「リフォーム補助」等、人口増加に繋がる支援制度に期待をいたします。

2. 愛媛県四国中央市新庁舎建設について

日本一の紙のまち（人口 83,624人）愛媛県四国中央市新庁舎建設の経緯や課題について、お話を聞かせて頂きました。

（ア）旧庁舎が抱えていた課題

- ◆耐震性不足や老朽化による安全性の低下
- ◆維持管理費の増大
- ◆防災拠点としての機能不足など

(イ) 新庁舎の基本理念

- ◆市民の安全・安心な暮らしを支える庁舎
- ◆市民に親しまれ、利用しやすい庁舎
- ◆環境に配慮し、かつ効率的・機能性を重視した経済的な庁舎

(ウ) 新庁舎建設に係る経緯について

- ◆平成24年7月 市庁舎耐震診断実施
- ◆平成25年8月 新庁舎建設基本方針等の検討開始
- ◆平成26年3月～平成27年5月 基本方針、構想、計画の策定
- ◆平成28年12月 工事請負契約締結
- ◆平成30年9月 新庁舎供用開始

<まとめ>

平成30年より新庁舎の利用が始まり、この度の視察では、5年目の庁舎を見学させて頂きました。

外見はシンプルなデザインで落ち着いた構造でしたが、内見は基本理念に示された庁舎機能が所々に配置されており、フラットな議場のレイアウトや地域らしさを活かした市民交流のエントランスホールなど、明るく開かれた市民が誇れる庁舎だと感動いたしました。

本市における三浦市市民交流拠点整備事業の進捗状況も注視するとともに、公共及び民間双方の施設が一体となった市民交流拠点の取り組みに期待します。民間施設整備運営事業では、公共施設と適切に連携させることにより、本事業にふさわしい商業施設、交流施設等の民間施設整備運営事業を選定事業者が計画・実施することを求めます。

「三浦市市民交流拠点整備の方向性」に示したとおり、本事業は、異なる世代等様々な市民に加え、豊かな自然や食等を目的とした市外からの訪問客も含めた多様な人々の交流を育む市民交流拠点の形成をめざして、市内外の住民をはじめとする多様な世代等様々な人々の来訪、活動が想定される事業内容となります。例えば、図書館を交流の中心として機能させ、市外からの訪問客も含めた市外との交流 と市民の利用や活動を対象とした市内との交流が両立する、ひとりでも訪れやすく誰もが居心地の良い交流拠点となるように市民、行政が一体となり邁進することを願います。

総務経済常任委員会行政視察 報告

長島 満理子

1. 香川県三豊市

「三豊市の移住・定住促進について」

三豊市は、平成18年に対等合併し人口59,823人（令和4年10月1日）で第2次総合計画では、人口目標63,500人+とし「+」は交流人口、関係人口を示している。年々移住者数や移住相談数が増加傾向にある。若者、子育て世代が多い傾向にある。

空き家バンク制度では、登録物件を購入し、リフォームした場合は、補助金を活用できる。住宅取得制度や家賃補助制度があり、若者定住促進・地域経済活性化補助金、移住促進・家賃等補助業など多くの補助金事業を取り入れている。

移住ポータルサイトを活用し、移住相談などを行い、移住者交流が行われている。課題としては、2拠点居住が多い。三浦市同様、行政以外でも移住相談などが行われ、移住者同士のネットワークがある。三豊市の「みとよ暮らし手帳」を見てみると、移住者さんがオープンしたゲストハウスや飲食店が掲載されている。この移住促進用に印刷された冊子はHPなどを利用し印刷されているもので、常に情報が新しい利点がある。

行政と移住者同士のネットワークが繋がればいいと思った。また、三豊市は自然豊かなまちであり、SNSなどに投稿され「映え写真」で有名になっていた。そういった利点を生かした施策が若者の定住や移住に繋がっていると感じた。

少子高齢化、人口減少が課題はどこの市町も共通であり、まちの持つ強みを最大限に利用し、子育て施策など、住み続けたい街づくりを目指していく必要がある。

2. 愛媛県四国中央市

「新庁舎建設について」

新庁舎建設の経緯は、合併協議で10年以内に適地を求めて建設するとしていた。また老朽化などの課題もあったが、平成16年の度重なる台風災害による経費の増加で厳しい財政状況を踏まえ、文化ホール建設が優先され庁舎建設は見送られていた。しかし、平成25年に現市長の方針により基本構想や基本計画において新庁舎建設位置や規模等が決定し、建設がスタートした。

基本理念は、市民の安全・安心な暮らしを支える庁舎、市民に親しまれ、利用しやすい庁舎、環境に配慮し、かつ効率的・機能性を重視した経済的な庁舎



である。

見学させて頂くと、基本理念通りの新庁舎だった。まず議場は、開かれた議会ということで、傍聴しやすい環境、議会運営の設備も整っていた。

市民が来庁しやすい動線が出来ていて、各部署の案内がわかりやすく示されていた。また、市民交流拠点として誰でも気軽に過ごせ、学生たちも気軽に勉強などが出来る環境が整備され、今必要とされている地域交流の場が作られていた。

新庁舎建設には、職員の意見が多く取り入れられたという話も伺った。

○総務経済常任委員会 行政視察 報告

小林 直樹

1. 香川県三豊市 〈視察事項〉移住・定住施策について

(1) 令和3年度の移住者数・移住相談件数

令和3年度の移住者数は2,780人、移住相談件数は4,540件

(2) 移住・定住の施策

①住宅取得支援制度（今年度が最終年度）

若者定住促進と地域経済活性化を目的として、市内事業者を利用した40歳未満の住宅取得に対して上限100万円の補助金を交付

②家賃補助制度

移住促進を目的として、県外からの移住者に対して上限2万円／月を12ヶ月家賃を補助等

③新たな移住・定住促進の取り組み

「市民が誇れる魅力あるまちづくり」として、健康を中心とした「WELL-BEING（幸福度）」の向上

(3) 今後、参考にすべき事項

新たな取り組みとして、幸福度を向上させていく方針だということでした。そのためには、医療や福祉、教育や子育て支援などの充実が必要です。当たり前のことですが、「住んで良いまち」は「移り住んでもらえるまち」だと思います。

2. 愛媛県四国中央市 〈視察事項〉新庁舎建設について

(1) 新庁舎建設までの取り組み

新庁舎建設について、議会での特別委員会を8回、市役所内の検討会を14回、その他に市民の方からの意見を聞く

(2) 新庁舎の基本理念

①市民の安心・安全な暮らしを支える庁舎

災害対策拠点機能が果たせること、天井落下を考え天井を設けないこと等



②市民に親しまれ、利用しやすい庁舎

誰もが利用しやすいこと、市民の交流や情報交換が図れること等

③環境に配慮し、かつ活効率的・機能性を重視した経済的な庁舎

自然環境を利用し、人と自然をつなぐ、環境を重視し経済的であること等

(3) 今後、参考にすべき事項

三浦市では、令和8年4月に市役所の新庁舎を引橋地区に建設する予定になっています。市民にとって利用しやすい庁舎、災害対策拠点となる庁舎を建設することが必要です。そのためには、市民の意見を十分に聞くこと、市職員が庁舎建設の検討に参加すること、議会での議論が十分に行われることが求められていると思います。

総務経済常任委員会 行政視察報告

三浦市議会議長 草間 道治

これまで新型コロナウイルス感染症の影響で2年間行政視察が中止され、3年ぶりに行政視察を再開することが出来ました。

今回の視察は、香川県三豊市「移住・定住施策について」と愛媛県四国中央市「新庁舎建設について」行政視察に行きました。

初日に視察した三豊市では、令和2年度の移住者数については、55世帯94人であり、令和3年度の移住者数については、201世帯305人であり大きな成果を上げていました。

その理由としては、住宅取得支援制度として市内事業者を利用した40歳未満の住宅取得に対し100万円の補助金交付や家賃補助制度として、移住促進・家賃等補助事業（県費1/2）移住促進・新婚世帯家賃補助事業や東京UJIターン移住支援事業（県費3/4）等、県からの補助金を有効的に活用した補助事業により、移住・定住者しやすい環境であり、毎年増加しているのではないかと感じました。お昼に食べた、手打ちうどんは最高でした！さすがうどん県!!

翌日、愛媛県四国中央市「新庁舎建設について」の視察させて頂いた新庁舎については、平成28年12月から工事に着手し平成30年9月に完成した新庁舎は、鉄骨造・免震構造の地上6階建ての素晴らしい庁舎でした。

新庁舎の基本理念では、市民の安全・安心な暮らしを支える庁舎として、災害対応拠点の機能として、地下に埋設した40tの飲料水兼用耐震性貯水槽を設置・緊急時の生活用水の確保では、雨水の再利用や安全・安心な庁舎として、天井材落下に被害防止として1・2階に天井レスを採用するなど、大変勉強になりました。

また、市民に親しまれ、利用しやすい庁舎では特に雨天時にも利用しやすい



駐車場として、立体駐車場の整備により、雨に濡れることなく、車椅子で庁舎2階の福祉窓口へ直接アクセスが可能にするなどは、だれでも利用しやすいと感じました。

議場についても、最新機器を備え、木材を利用した明るい議場でした、特に、オレンジ色の椅子と傍聴席の後方が全面ガラス張りで、一般市民が傍聴しなくても気軽に議会を見学できるスペースが設けられているところが、私としては、一番印象に残る議場であり、大変参考になりました。